

マスク緩和、3月13日から屋内外問わず個人判断に 混雑車内は着用推奨—新型コロナで指針・政府

2/11 時事ドットコムニュース



政府は10日、新型コロナウイルス対策のマスク着用について、3月13日から新たな指針を適用し、屋内外を問わず個人の判断に委ねる方針を決めた。混雑時の電車内などでは引き続き着用を推奨する。新型コロナの感染拡大から4年目を迎える中、マスクを前提とした生活スタイルが大きく変わる。

政府対策本部を持ち回りで開き、方針を正式決定した。加藤勝信厚生労働相は記者会見で、「国民への周知や事業者の準備期間を考慮した」と適用時期を約1カ月後とした理由を説明。「今回の見直しは全国民や事業者に関わる。円滑に行われるよう万全な準備を進めたい」と述べた。

指針では、全員が着用できる新幹線や高速バス内でのマスクを不要とする一方、混雑する通勤電車やバスでは引き続き着用を勧める。重症化リスクの高い人がいる医療機関や高齢者施設を訪れる際も推奨する。症状がある人や陽性者、同居家族には原則として外出を控えてもらい、通院などでやむを得ず外に出る場合はマスク着用を求める。

マスクの着脱はいずれも強制されないことがないよう、「個人の主体的な判断が尊重されるよう周知していく」とした。一方で、事業者が必要と認めた場合は「利用者または従業員に着用を求めることは許容される」との見解を示した。

学校内の着用についても新たなルールを設け、4月1日から適用する。授業など教育活動での着用は求めず、同日より前の卒業式についても、生徒らはマスクなしで出席できるとした。

マスク着用に関するルールには法的拘束力がなく、政府はこれまで「原則として屋外では不要、屋内では着用を推奨」との考え方を示していた。

マスク緩和、ルール見直しも 感染リスクになお慎重—大手企業

政府が新型コロナウイルス対策のマスク着用基準を緩和することを受け、一部の大手企業は社内ルール見直しの検討に入った。ただ、「まだ感染リスクがある」（化学品）と、慎重な意見も根強い。政府に対し、「企業活動に支障が出ないよう具体的な指針を示してほしい」（食品）との声も目立つ。

マスク緩和、3月13日から屋内外問わず個人判断に 混雑車内は着用推奨—新型コロナで指針・政府

「コロナ対策の社内基準改定を検討している。店頭やオフィス内での対応、マスクの着用もその一つ」と話すのはイオン。3月上旬には新基準を決めたい考えだ。キリンホール

ディングスも「今は原則マスク着用だが、政府指針を受けて見直しを検討する」としている。

一方、「社内で感染者はまだ出ている。(感染者数など) データに基づき緩和などを判断したい」(卸売業)と、「脱マスク」に慎重な企業も多い。特に接客業は、「お客さまの感じ方もある。マスクもアクリル板もすぐ撤去とはならない」(百貨店)と指摘する。

ただ、政府方針の変更は「平時に向かう動き」(航空業界)と、基本的には歓迎ムード。「セミナーなどの会合もしっかりやれるようになってほしい」(流通)と、さらなる正常化への期待も聞かれた。